

▼横穴B群の全景



▲B群3号群正面



▲B群発掘作業風景



埋蔵文化財包蔵地 中西横穴群

History

キラリを再発見

新野地区最大の横穴群

新野地区で最大の横穴は、新野中西と菊川市高橋の境にある佐栗谷トンネル入口北側の丘陵の南側斜面にある中西横穴群です。この横穴群は3段に分かれていて、上段をA群、中段をB群、下段をC群と呼びます。平成15年にB群の調査をした結果、B群は今まで知られていた5基以外に2基の存在が確認されたことから7基となり、中西横穴群全体では、9基以上の横穴の存在が判明し、新野地区最大の横穴群であることが分かりました。

B群については、7基の内6基の横穴の発掘調査を実施しました。盗掘にあったものと思われる出土遺物はありませんでした。近くの墓から古墳時代後期の須恵器と奈良時代の赤色顔料を塗られた土師器杯の破片が出土していることから、奈良時代まで追葬されていたことが分かりました。

この見直しでは、安全性を一層高める観点から、緊急時に原子炉や使用済燃料プールに「冷やす」機能をより確実に確保するための電源設備対策の強化が図られます。具体的には、高台に設置するガスタービン発電機の台数増加や、同発電機の専用免震建屋の設置などが実施されます。なお、防波壁の設置や、建屋への津波の浸入を防止する対策、「建屋外壁の防水構造の信頼性強化」は、当初の予定どおり進められています。



▲緊急時ガスタービン発電機建屋(完成予定図)

また、内閣府が公表した「南海トラフ沿いの巨大地震による震度分布や津波高等の推計」に関するデータ提供を受けた上で、浜岡原子力発電所において想定すべき地震動および津波について検討し、平成24年12月をめどに同発電所への影響に関する評価を進めることとしています。

Atomic

暮らしと原子力

津波対策工事の延長について